

# 平成29年度スーパーバイザーによる学校教育支援事業報告書

鳥取市立神戸小学校（江山中学校区小・中学校）

研究テーマ「自信と活力に満ちた児童・生徒の育成

～伝え合い、学び合い、高め合う職員集団をめざして～

スーパーバイザー：兵庫教育大学 浅野良一 教授

## 1 テーマ設定の理由

本校の児童は素直で何事にも真面目に一生懸命取り組む一方、自分を表現することや自分から進んで行動することが少ない傾向にある。そのため、本校は少人数のよさを活かしながら、授業力向上と魅力ある体験活動を通して、自分に自信をもち、たくましく豊かに生きる児童の育成に努めている。その実現のためには、教職員個々が自己の使命を自覚し、学校教育目標の具現化に向けて互いに高め合う集団とならなければならない。本校は小規模校であるため、教職員数も限られており、教職員にとって校内での学びの幅に限界がある。幸いにも、本中学校区には美和小学校、江山中学校との小中一貫教育振興会があり、学力向上を核に義務教育9年間で育てたい子ども像をめざし、自信と活力に満ちた児童生徒の育成に努めている。このように中学校区で連携しOJTを推進することにより、本校教職員の育成と学校組織の活性化が図られ、「江山中学校卒業までに育てたい子ども像」の具現化に迫ることができると考え、このテーマを設定した。

## 2 江山中学校区の概要

### (1) 江山中学校卒業までに育てたい子ども像

- 学習に自主的に取り組み、たくましく、自立した生活をおくろうとする子ども
- 自分の考えや意見を堂々と発表できる子ども
- 積極的に人と関わり合い、自分の思いを表し相手の気持ちも受け入れる子ども

### (2) 児童生徒の実態と課題

- ・素直に教師の指示を聞いて行動し、課題にもまじめに取り組む。
- ・周りの様子を見てから行動を起こす傾向がある。
- ・自分の考えを表現することに苦手意識を持っている。
- ・家庭で主体的に学習に取り組む習慣や自立した生活習慣が身につけていない。

### (3) 重点取り組み

- 学習意欲を高め、表現力を育成する授業改善を進める。
- 学級経営等の充実を図り、チームとしていじめや不適応の問題を未然に防ぐ。
- 児童生徒の自治力を高める活動を充実させる。
- 家庭生活の3点固定等、保護者への啓発を行い、家庭学習の習慣化を図る。

### (4) 児童生徒数・教職員数

	神戸小学校	美和小学校	江山中学校	合計
児童生徒	25	143	72	240
教職員	10	16	14	40

### 3 研究計画

- 4月26日 中学校区小中一貫教育振興会企画委員会での提案（方針、事業計画）
  - 5月16日 中学校区小中一貫教育振興会総会での事業の方針、計画等の説明
  - 6月26日 中学校区企画委員会で今年度の事業計画と具体的な進め方についての研修  
（指導助言：浅野良一先生） 指導助言を元に各校でOJTを推進
  - 9～10月 各校で前期の評価と後期の取組の見直し
  - 10月10日 中学校区教職員OJT研修会（講師：浅野良一先生）  
研修会での助言を元に各校でOJTを推進
  - 2月19日 中学校区企画委員会で今年度の評価と次年度への展望  
（指導助言：浅野良一先生）
- 随時、各校においてOJTを推進

### 4 研究の実際

中学校区の課題の中から学力向上に焦点を絞り、スーパーバイザーである兵庫教育大学教授 浅野良一先生の指導のもと、各校が自校の実態に合った解決策を練り合うことにした。ここでは主に神戸小学校の取り組みについて紹介する。

#### (1) 現状分析と課題形成

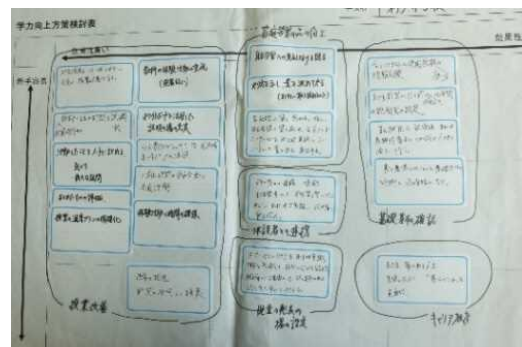
6月26日（月）、美和小学校において、第1回企画委員会を開催した。メンバーは3校の校長、教頭、教務主任である。この会は10月に開催予定の中学校区教職員OJT研修の予行も兼ね、学校のリーダーシップを取る校長、教頭とミドルリーダーの教務主任が自校の問題解決に着手してみた。

はじめに、浅野先生から改善（問題解決）とは何かというところから教えていただいた。問題解決とは「ありたい姿」と「現状」の差（ギャップ）をなくし、期待を実現すること（あきらめや解消ではなく）。問題の型には2種類あるが、学力向上は「探索・開発型」で、現在直面した問題は発生していないが、現状に満足せず現状のレベルよりもっと高い期待を持つ場合に現れ、レベルの高い期待水準により「意図的に作り出される」ギャップが問題となることなど、問題のとらえ方を学んだ。本校は、相対的に学力は低くはないが、個々の差が大きいこと、教師の指導力に開きがあることなどが問題として挙げられる。

次に、「現状」を「めざす姿」に近づけるための取り組みについて、各校でそれぞれ考えを出し合った。それらを、「学力向上方策検討表」を使って着手が容易か困難かを縦軸に、効果性の有無の程度を横軸にまとめた。各校から出た課題を表にまとめてみた。



第1回企画委員会の様子



学力向上方策検討表

〈学力向上に向けた取組課題〉

神戸小学校	「授業改善」「家庭学習の質の向上」「保護者との連携」「児童の発表の場の設定」「基礎基本の確認」「キャリア教育」
美和小学校	「アクティブ・ラーニング（教師主導から児童主導へ）」「生活習慣の見直し」「学ぶ意欲と意識改革」
江山中学校	「生活・学習習慣・ノーメディア」「学力アップへの支援」「志に火をつける」「誰でもできる表現力の育成」「なりたい自分になる」

(2) 課題解決に向けた実行計画づくり

第1回企画委員会で出した各校の方策の具体案を、今度は中学校区の教職員全員で考える研修を行った。10月10日、神戸地区公民館に3校の教職員が一堂に集まり、浅野先生からご指導をいただいた。問題解決の着眼点を「原因をつぶす」「阻害しているもの（弱み）を減少させる」「促進要因（強み）を活用する」の3つとし、それぞれの「めざす姿」を考えた。本校は、いくつかの取組課題の中から方策の柱として、「授業改善」「家庭学習の質の向上」に絞り、2グループに分かれて次のような「めざす姿」について考えを出し合った。

〈めざす姿〉

- ①教師の授業が改善された姿      ②子どもの家庭学習の質が向上した姿

①グループ（教師の授業が改善された姿）

- ・1時間の見通しとめあてが明確にされている
- ・児童が主体的に活動している
- ・ペア、グループで児童同士が考えを出し合っている
- ・教師の発問が工夫されている
- ・ふり返りの時間が確保されており、次時へとつながる内容になっている

本校は小規模校であるため、少人数であることを強みにした授業をめざしている。児童一人ひとりに手厚い指導ができる反面、多様な考えが出にくかったり話し合いが深まらなかったりする。そのため、意見交流がしやすい机の配置やグループ作り、個々の考えを全体で共有できるボード等の活用など、日頃授業で行っていることが挙げられていた。

②グループ（子どもの家庭学習の質が向上した姿）

- ・基本的な生活習慣が確立している
- ・鉛筆の持ち方や学習時の姿勢など、基本ができている
- ・家庭での学習習慣が確立されている
- ・なりたい自分があり、将来の夢や目標に向かって努力している
- ・自主学習の内容が基礎的なものだけでなく、応用、発展した内容になっている

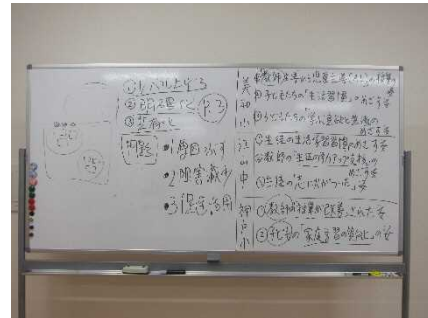
本校の児童の多くは、宿題など決められたものは忘れずに提出し、自主学習もほぼ全員がやって来る。しかし、言われないことはしなかったり自主学習の内容が漢字や計算の反復練習のみだったりする。江山中学校区で家庭学習の手引きを作成したり、中学校のテスト期間に合わせて小学校も「勉強がんばり週間」を導入したりしているが、まだまだ改善の余地は

ある。家庭と連携しながらの生活習慣・家庭学習習慣の確立、学年に応じた自主学習の指導など、現在行っていることを継続していくことや新たな工夫が挙げられていた。

以上のような作業を3校が終えた後、それぞれのグループが発表をし、それに対して各校の校長がコメントを述べた。本校もすぐに着手できるもの、来年度ぜひ取り入れたいものなど、実行可能かどうかを見極めながら実践につなげていくことにした。



中学校区 OJT 教職員研修会の様子



各校の「めざす姿」

### (3) 校内 OJT の取り組み (神戸小学校)

- ・学校教育目標の具体化を図るため、3プロジェクト(いきいき・のびのび・たくましく)の共通実践、評価の見直しを行った。
- ・ミドルリーダーとなる教務主任、研究主任を中心に、本校の研究テーマ『生き生きと伝え合い、高まり合う子どもの育成～「つたえる力・つなげる力」を育てる授業づくり～』のもと、生活科と総合的な学習の時間を研究教科・領域として授業研究を実践した。
- ・9月には江山中学校区の授業研究会を開催し、主に「児童の主体的な学び」「課題の設定」「発問の工夫」「思考を深める伝え合い・学び合い」について視点をしぼり、評価シートを使っての評価をし、研究を深めた。
- ・昨年度より、一年間の学習の成果として、保護者や地域の方に児童が学習のまとめを発表する機会を設けた。児童が自分の言葉で、聞く人を意識して話すことを重視している。また、発表を聞くときも、感想が言える聞き方や傾聴の態度なども重点としている。
- ・カリキュラムを工夫や複式学級であることを活用し、教師が複数学年で互いに授業を見合ったり、児童が他学年に授業のまとめを報告し合ったりする機会を設けた。
- ・来年度の教育課程を見据え、外国語活動や特別支援学級の公開授業、研究協議を行った。
- ・「教務主任だより」「研究だより」を発行し、教職員への意識付けを行った。
- ・中学校区の教務主任会、養護教諭部会、生徒指導部会など、小中連携や小小連携で課題を共有できるよう組織の見直しを図った。

### (4) 来年度に向けて

今年度のふり返りと来年度の構想づくりに向けて、第2回企画委員会を2月19日、神戸小学校で開催した。各校の今年度の成果と課題を出し、浅野先生の指導と助言をいただきながら、来年度の各校の校内体制や中学校区での取り組みについての悩みや疑問点、構想を出し合った。

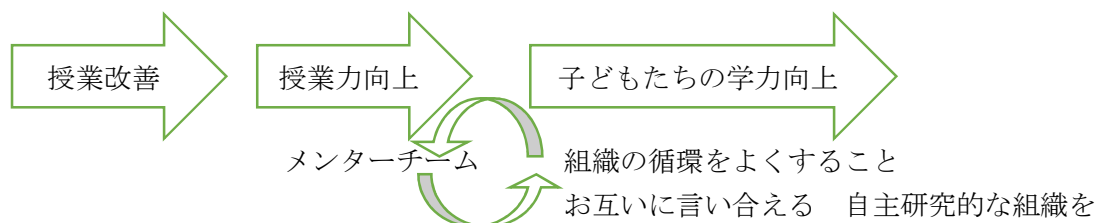
浅野先生からは「学力向上に向けたメンターチームづくり」と題して、先進校の事例などを取り上げながら、メンターチームによる校内組織の活性化、及び人材育成について講義をしていただいた。先に出した各校のふり返りから、私たちが行き詰っているところは組織の循環をよくすることで解決することをご指摘いただいた。そのために、教職員同士が職制ではなく、

互いに同僚性や自主性、主体性を発揮したチームを組み、ラフなスタイルでの勉強会などを意図的、計画的にマネジメントすることなどをご指導いただいた。本校は教職員の年齢構成に偏りがあるため、若手教員を育てるメンターチームは作りにくい。校外の研修会に参加する、他校の授業を見に行く、または見に来てもらうなど、ベテラン教員の持ち味を生かしながら中学校区内での連携を取り入れるなど、参考になることが多々あった。また、業務の適正化が求められている今、単に業務量を減らすのではなく、教員の「学ぶ時間」を作るという考えから、教員の主体的・対話的な深い学びを促進するねらいも達成できるのではないかと考える。

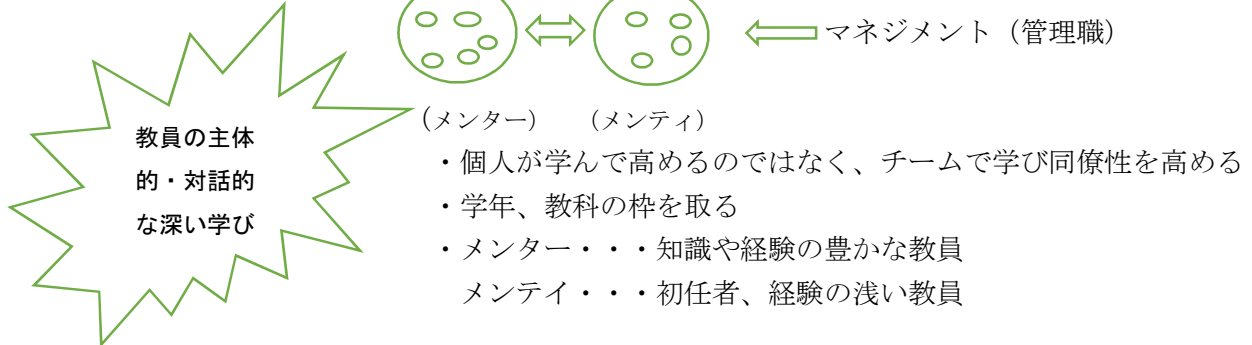
今回、浅野先生からご指導をいただいたことをもとに各校が校内の実態に応じた組織編成を行い、「学力向上」という同じ目標に向けて互いに連携し、刺激し合うよさを再確認することができた。

〈浅野先生の講義より〉

\*本校区の現状



\*メンターチームづくり



## 5 中学校区の成果と課題

- 学力に関する学校課題をどのように共有し解決していくのか、その考え方、方策を教職員全体で学び、考えを出し合ったこと自体がOJTであり、今後の方向性を考える上でたいへん参考になった。
- 自信を持って表現する授業づくりに努め、音声言語による発表を多く取り入れたことで自信を持って表現する児童が増えた。対話的な深い学びをめざし、授業スタイルも確立してきた。
- 全職員研修会后、教員の意識が高まり、自主学习ノートのよくできているものを掲示したり、児童の実態に応じた家庭学習の出し方や内容を考えたりする学級が出てきた。
- 養護教諭を中心に家庭での生活習慣の啓発を行った。保護者の意識の高まりが見られ、児童の生活習慣に向上が見られた。
- 授業改善により児童理解が進み、児童の学力が向上した。児童は「授業が分かるようになった」「算数が好きになった」と言い、他の活動にも自信を持って取り組むようになった。
- 「めざす授業像」の共通実践と生徒による授業評価を導入したことにより、授業が改善されつつあり、「授業が分かる」という生徒が増えた。
- 中学校区の学力向上に関し、3校の教務主任が同じ方向性で話し合う機会が持てた。
- △表現力に関し、決まったことは言えるようになったが、その場で考え発言することには自信

がない。

△教師主導型の授業もあり、児童生徒同士の学び合いができるよう指導法に関する授業改善が必要である。

△家庭学習の習慣化はできつつあるが、内容が基礎的なもので終わる、言われなかったらしなど課題がある。中学校での学びに向けた質の向上と自主的、主体的な学習習慣を身につけさせたい。

△授業で分かっても、それが学力につながっていない。家庭での学習の習慣化にも課題があり、家庭との連携、保護者への啓発が求められる。

△本研究がまだ全教職員のものになっていない。ご指導いただいたことをもとに、各校の学力の実態を中学校区全教職員が共有し、中学校区の課題解決に向けて各校の実態に合った取り組みが必要である。

△校内 OJT を推進していくに当たり、個々の教員の資質向上が不可欠である。授業改善が一過性のものでなく、日々の積み重ねの上にあるという意識を持ち、日々の授業力の向上と職員室でのまじめな雑談がしやすい環境づくり、同僚性の醸成を今後も図っていきたい。

## 6 終わりに

多くの職場がそうであるように、本校も仕事を通して人が育っている。人が育つためには、その人が属する集団や組織が育っていなければならない。浅野先生からは、学校課題を解決するという取り組みを通して、教職員集団の質を高めていくという考え方を学んだ。

自校の「問題」をどのように「課題」として解決するのかという視点は、マネジメントをする上でも大いに役立った。「問題」は関心が「現状」に、「課題」は関心が「期待」に向いて、「期待」が「めざす姿」となる。問題を課題ととらえ、より高い「期待」を持つことで学校の「めざす姿」をより高いレベルにしていくことが大切だ。グループで話し合った「めざす姿」は、現在行っていることをさらに進めたものやより工夫を加えたものが多く、教職員がより高い目標に向かっていることを表している。校長のリーダーシップ、メンバーの参画、円滑なコミュニケーションはもちろんのこと、今行っていることの何ができて何ができないのか現状を分析し、着手できそうな方策から取り組んでいきたい。

OJT 推進の取り組みにはまだまだ課題はあるが、各校で取り組まれたことが小中連携や小中連携、また、中学校区の部会でも活かされていることを感じる。ご指導いただいた同僚性を発揮しやすいチームを各校でどのように作っていくのか、また、自校での人材育成、そして組織の活性化のために、3校がどのように連携していくのか、学校マネジメントをしていく上でたいへん貴重なご示唆をいただいた。今後、自校の OJT が推進されることにより、中学校区の児童生徒の学力が向上することを期待したい。

最後に、ご指導くださった浅野良一先生、そして、同じ中学校区として校内 OJT を推進してくださった江山中学校、美和小学校の先生方に感謝を申し上げたい。